



主要諸元:(アルトラパン X 4WD)

- 全長×全幅×全高/3,395×1,475×1,525mm
- ホイールベース/2,460mm
- トレッド/前:1,295mm 後:1,290mm
- 車両重量/730kg
- 最小回転半径/4.4m
- エンジン/R06A (658cc 直列3気筒DOHC 12バルブ)
- 最高出力/52ps/6,500rpm
- 最大トルク/6.4kgm/4,000rpm
- JC08モード燃費/33.2km/ℓ
- ミッション/CVT
- ブレーキ/前:ディスク
後:リーディングトレーリング
- タイヤサイズ/155/65R14
- 駆動方式/4WD
- 乗車定員/4名
- 車両本体価格(札幌地区)/1,492,560円(消費税込)

今回のフルモデルチェンジでは初代／二代目と明確に異なるエクステリアデザインが印象的で、しかもスズキ・グリーンテクノロジーを採用したことにより「可愛らしく、低燃費で、使い勝手の良いクルマ」として高い完成度を誇っている。

アルトにも搭載されている658cc直列3気筒DOHC 12バルブエンジンは、4WDでリッターあたり33.2km、FFで35.6kmと、極めて高いエコ性能を誇る。減速時の回生エネルギーを溜めて電装品に給電するエネチャージ、アイドリングストップを標準装備し(Gグレードを除く)、街乗りの足としては最適なパートナーと言えるが、面白いのは、ラパンを選ぶユザーの多くがデザインを選択理由の一位に挙げている点である。

初代から二代目にかけてデザインコンセプトは継承してきた。三代目も全体のフォルムは似ているのだが、細部を見ると全く違う。先に大ヒットを記録したハスターに通ずるものもあるし、「可愛い」「ユニーク」に加えて、どこかゆるキャラのようなほんわかしたイメージを持っているのが特徴だ。特に大きな変化が感じられるのは円形のリアコンビネーションランプ。例えばつり目なら厳しさや力強さを、垂れ目なら優しさや繊細さを…というように、リアコンビネーションランプの造形だけでもクルマの印象は大きく異なる。その

アルトにも搭載されている658cc直列3気筒DOHC 12バルブエンジンは、4WDでリッターあたり33.2km、FFで35.6kmと、極めて高いエコ性能を誇る。減速時の回生エネルギーを溜めて電装品に給電するエネチャージ、アイドリングストップを標準装備し(Gグレードを除く)、街乗りの足としては最適なパートナーと言えるが、面白いのは、ラパンを選ぶユザーの多くがデザインを選択理由の一位に挙げている点である。

初代から二代目にかけてデザインコンセプトは継承してきた。三代目も全体のフォルムは似ているのだが、細部を見ると全く違う。先に大ヒットを記録したハスターに通ずるものもあるし、「可愛い」「ユニーク」に加えて、どこかゆるキャラのようなほんわかしたイメージを持っているのが特徴だ。特に大きな変化が感じられるのは円形のリアコンビネーションランプ。例えばつり目なら厳しさや力強さを、垂れ目なら優しさや繊細さを…というよう

に、リアコンビネーションランプの造形だけでもクルマの印象は大きく異なる。その

インテリアもユニークだ。運転席に座って先ず目に付くのは、木目調のダッシュパネル。まるで自宅の部屋のテーブルのようだ。センターに置かれたナビ／オーディオスペースはあたかもテーブルに置かれたフォトフレームのようで、ダッシュボードとかインパネと言うよりは、テーブルあるいはデスクと表現した方がしっくりくる。そしてこの三代目にも、隠れキャラのようにうさぎのマークがあちこちに設置されている。フロントグリルのセンターエンブレム、ドア開口部のボディ側とドア側あたりは発見できるのだが、リアハッチを開けた際のヒンジ部分や、運転席サンバイザーを降ろした際の天井など、思わず「ここにもいた！」と声を出してしまったような仕掛けが施されている。

加えてメーターパネル下部に設置されたマルチインフォメーションディスプレイもユニークだ。タコメーター、燃費計、エネチャージ情報などのほか、アイドリングストップ時にはうさぎのグラフィックがゆらめいたり、エンジンを切ると同じく

点、円形は無表情なのだが、どうしても「目」に見える。そしてリアハッチのノブが鼻、ナンバー部分が口というように、自然に擬人化してしまう。実はフロントのデザインも同様で、このあたりが「愛車」ではなく「私のラパン」と言いたくなる要素の一つかもしれない。

2008年には一代目が登場。4代目ワゴンRのプラットフォームを採用したこと、ホイールベースが拡大され、居住性と開放感向上。エクステリアデザインはレトロっぽいイメージが抑えられた反面、モダンでキュートな方向が強められた。車種名の由来でもあるうさぎ(ラパンはフランス語でうさぎ)が積極的にモチーフに用いられるようになり、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに登場。ターボモデルや若い女性向けの特別仕様車「ベネットンバージョン」、そしてターボモデルも存在した。

可愛らしさをとことん追求 自室をコーディネイトするように選べる新型ラパン



SUZUKI ALTO Lapin

■テキスト=横山 聰史 (Lucky Wagon) ■Photo=川村 黒 (川村写真事務所) ■取材協力=スズキ アリーナ札幌東 TEL(011)782-2288

■デザインと燃費性能に
優れた三代目

プロフィール

アルトの派生モデルとして、主に女性をターゲットとしているラパンがフルモデルエンジンされて三代目となった。派生モデルとは書いたものの、一般的に「アルトラパン」と呼ばれるよりも「ラパン」と認識されており、明確な個性を持つた別車種と考えた方が良い。

そもそもの成り立ちは2001年に遡る。

第35回東京モーターショーに出品され、翌年に初代モデルが発表された。角張ったスタイルはどこかレトロなムードを醸し出し、スポーティで上級仕様の「バージョンV」や「キャンバストップ」、オートバックス・ベネットンとタイアップした特別仕様車「ベネットンバージョン」、そしてターボモデルも存在した。

2008年には二代目が登場。4代目ワゴンRのプラットフォームを採用したこと、ホイールベースが拡大され、居住性と開放感向上。エクステリアデザインはレトロっぽいイメージが抑えられた反面、モダンでキュートな方向が強められた。車種名の由来でもあるうさぎ(ラパンはフランス語でうさぎ)が積極的にモチーフに用いられるようになり、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに登場。ターボモデルや若い女性向けの特別仕様車「ショコラ」も設定された。



ディーラーメッセージ

スズキアリーナ札幌東
カーライフアドバイザー

田中 龍馬さん

デザインで選ばれるお客様が非常に多いラバーンですが、今回のニューモデルも非常に可愛らしいデザインで登場してきました。好評だった広い室内空間や乗降のし易さはそのままに、安全機能が充実。ボディカラーのバリエーションも迷ってしまいそうなほどこだわり抜いた設定となっています。エコ性能においてもスズキグリーンテクノロジーにより、リッターアー33km以上の低燃費を実現。市街地からロングドライブまで、あらゆるシーンで良き相棒となってくれます。ご来店、ご試乗お待ちしております。



さて動力性能だが、日常的な走行にはまったくストレスを感じさせないだけのものを持っている。ただ郊外や登坂などでモードパワーが欲しいときは、シフトレバーのボタンを押してSモードにすれば良い。4,000回転で最大トルクを、6,500回転で最高出力を発揮するエンジンなので、積極的に回しても良いだろう。ラインアップはX/S/L/Gの4グレードで各々にFFと4WDを用意。すべて5ドアボディで、搭載エンジンも京都となっている。

足回りはキビキビというよりスマート。ステアリングを急に切った際など、クイックな動きは見せないものの、スマートな挙動でクルマ全体が動く。ただ最少回転半径が4・4mとアルトより僅かに小さく、もうすぐ小回りが利くのには驚かされた。インプレを行う際、場所によっては何度も

外装色のバリエーションも面白い。一般的なセダンに設定がありそうなカラーはパールホワイトとブラックパールのみ。フレンチミントパールメタリック、シフォンアイボリーメタリック、コフレピンクメタリック、フォーンベージュメタリック。ここまでのかラーには白いルーフと組み合わせたソートーンも選ぶことができる。単色

のバリエーションにはカシスピンクパールメタリック、アーバンブラウンパールメタリックなどが用意されている。全バリエーションが掲載されているカタログは、

「スムーズな挙動で運転しやすい」という印象

さぎが登場して「お疲れ様でした」と話しかけてきた、クルマの基本性能に関係ない部分ながら、心が和んでしまう。その一方、レーダーブレーキサポートや誤発進抑制機能、エマージェンシーストップシグナルなど、安全。昨日は全車に標準装備されており、「イメージはあくまでも可愛らしく、機能はしっかりと」というメーカーの主張が感じられる。

■自分の部屋を飾るように愛車を楽しみたい方へ

こうした外装色と組み合わされるのは、ベージュ、キャメルとブラウン（ともにX専用）という3種類のシートカラーリー。自分の部屋をコーディネートするように、お気に入りの写真や花を飾るように、「私のラバン」を選ぶことができる。これから季節、ラバンを駆って颯爽と走る女性は、きっと個性豊かで素敵な人に違いない。

切り返さなければならないことがあるが、ラバンは狭い道でもなんなく方向転換ができてしまう。スーパーの混雑した駐車場、細い路地などの運転を考慮した気配りと言えるだろう。